

令和元年度 第 2 回 上 牧 町 総 合 教 育 会 議 議 事 録

- 日 時 令和 2 年 3 月 27 日 (金) 午後 2 時 00 分から午後 3 時 55 分まで
- 場 所 上牧町役場 2 階 第 2 会議室
- 出 席 者 今中町長、松浦教育長、暁委員、東谷委員、宮城委員、渡邊委員、上牧小学校上山校長、上牧第二小学校芝崎校長、上牧第三小学校秋田校長、上牧中学校岸本校長、上牧第二中学校大山校長
- 事 務 局 塩野部長、丸橋課長、森本課長、千葉指導主事、岡田指導主事、中川理事、俵本課長補佐、日高係長
- 次 第 開会
町長挨拶
案件
 - 1 ICT 機器の整備と今後の動向について
 - 2 学校適正化の推進について閉会

●議事概要

町長挨拶

- ・新型コロナウイルスが、騒がれている。現時点では、上牧町での感染者は出ていないが、土地柄、大阪の動向に注目しておく必要がある。今後どうなっていくのか、わからない状況下であるが、総合教育会議を開かせてもらっている。
- ・年々子どもの数が減っており、4・5年後には、学年1クラスという問題が現実に出てくる。我々としては、子ども達の心身の発達のためには、最低でも2クラスは必要ではないのかと考えている。そうなると統廃合をせざるを得ない。今年の秋頃から協議会の設置ができればと準備をすすめているところで、令和2年度から令和3年度で方向性をまとめ、令和4年度以降に必要であれば工事等も入れていくような計画でこれからすすめていきたい。
- ・今日は校長先生方にも来ていただいているので、現場の声を含め、いろいろな意見が出てくると思うが、皆さんの率直な意見を聞かせてもらえればと思う。

教育総務課長より、案件1 ICT機器の整備と今後の動向について説明

今中町長 子どもや先生方に対する指導は、どのような計画ですすめていくか。

丸橋課長 児童については令和2年度に小学校5年生から中学校3年生まで整備をする形になるので、令和3年度から実際に使用していくことになる。それを見据え令和3年度までに、先生方に対しての研修等をしていただきたいと考えている。

今中町長 全教員を対象にするのか。参加をしたからといってすぐにできるものではな

い。夏休みや冬休みだけで、間に合わなかったらどうするか。

丸橋課長 全教員を対象に夏休み等を利用した研修を行っていききたい。県の教育研究所の方でもタブレットを使った研修が今後出てくると聞いているので、そういったものにも参加していただきながらと考えている。専門的な部分に相談して、何でもできる範囲で研修を開いていこうと考えている。

東谷委員 ICT事業の整備事業を行うにあたり、アドバイザーの派遣事業が国あるいは県の補助事業として展開されるケースが多い。今回もおそらくあると思うので、そのような機会には遅れず手を挙げて、有効な人材を確保してほしい。またアドバイザーがすべての学校を隈なく回るとするのは難しいので、各学校の先生方の中で、パソコンに精通している方を中心としたプロジェクトチームをつくり、調査研究をしてもらったり、教材について勉強してもらったりする方法が有効なのではないかと思う。

今中町長 アドバイザーは、随時利用できるのか

丸橋課長 随時になるよう話をすすめていきたい。

東谷委員 委託事業として補助金をもらって派遣というのが基本的な方法。専門としてあるベネッセ等から派遣、各学校へ出向いてもらい、資料づくりから指導していただくのがよい。普段の授業の中に取り込んでいくとなると、一番難しいのは教材づくり。国の方針で1人1台ずつ児童生徒に配布しているわけなので、先生方がパソコンを使えないのは致命的な状態。先生方のパソコンを活用する能力を高めてもらうというのがやはり必要。

今中町長 十分な研修時間が取れるかということ、研修の時間が十分とれなかったらどうカバーするのかということも含め、アドバイザーをうまく利用しながら普段から学べる体制を構築しないといけない。夏休みだけというのではなく、校長先生と相談しながら、しっかりとスケジュール調整を組まないと、来年からするとなっても前を向いてすすめることができない。

東谷委員 パソコンを有効活用していくためにアドバイザーは必ず必要になる。国庫補助金・県補助金だけでは足りないと思うので、単費でもお願いしなければならない。

松浦教育長 今回の議会の中でも1番スポットになったGIGAスクール構想。町も前向きに予算を確保する方向でよいが、教員の指導体制がどうなっているのかという点が議題の焦点になった。先生方には研究所の研修を積極的に受けてもら

うとともに、町のプロジェクトチームにも教頭先生、教務主任を中心に積極的に参加していただきたい。ただ来月4月に教員の働き方改革というプリントを全保護者に配布する予定をしている。そんな中で教師はいつ、どんな形で研修の時間を確保するかということが、上牧町だけではなくいろんな市町村で問題にあがっている。

丸橋課長 研修については、令和3年度からはプログラミング教育が始まるので、プログラムを提供してもらった業者の方と相談しながら、先生方に指導してもらえると考えている。教材については、県から各教科に応じた教材をこれから出してくれると思うので、各学校、学年単位で共有して足並みをそろえてすすめていきたい。

東谷委員 ICTのよいところは、一度つくってしまえば、編集するのが容易であること。最初は時間がかかるが、後のことを考えると楽になり、労働の軽減が図れるかもしれない。今回の新型コロナウイルスによる休校のような場合に、家庭学習が可能になるというメリットもある。

暁委員 これから子どもやクラス数が減っていったとき、今ここにかける費用がきちんと回収できるか。統廃合等で無駄にならないようにしていかなければならない。ここ何年で道徳教育、外国語教育、今回のプログラム教育と先生方がやらなければならないことが増えているように思うので、働き方改革に逆行しないように研修もすすめていく必要がある。

渡邊委員 機器をうまく使えないからといって、その子どもについて先生が教えていては、全体がすすまない。最初の間は地域ボランティア等フォローできる人材が必要になってくる。

松浦教育長 ICTに関わらず、今も支援を要する子には支援員を町の単費で配置をしている。今後は専門的な知識を有している方に入っていただいて、ノウハウをきちんと学びながら事業展開していくということも必要になってくる。

三小校長 研修を受けただけですべてを把握するというのは難しいので、YouTube等を利用して、動画を町内で配信すれば、短時間で体得できる。全体的な研修はもちろん大事だが、個人で学べるような体制を整えていくのがよい。

東谷委員 今回配られるものは10GBで大容量なので、相当なことができる。すべての小学校をつないでしまえば3校で同時に授業をすることもできるので、可能性は十分ある。

今中町長 うまくすすめられるように、業者を利用する部分、アドバイザーを活用する部分、住民の方にお手伝いしてもらう部分など様々な方法を考え、子どもたちに役立つような、先生方にもしっかりと仕事がしてもらえるような形をとっていくことが大事。学校とも相談しながらすすめてほしい。

教育総務課長より、案件2 学校適正化について説明

松浦教育長 1年間、奈良教育大学の学識経験者を交えて、勉強会を行ってきた。5校を3校にする考えや5校を1校にして義務教育学校にする考え等いろいろな方法が出てきたが、町の予算や跡地利用、新設の費用という部分も加味しながらこの学校編成の適正化を行っていく必要がある。

東谷委員 将来的に児童数予測を見ていたらかなり単学級のところが出てくるので、校区編成をしないと上手く割れない。

宮城委員 現在ランドセルの重さが問題になっている。徒歩で通学というのであれば、そのあたりも考慮して校区編成するのもよい。

今中町長 どこを廃校にしても必ず有利と不利、距離の近い、遠いが出てきてしまう。できるだけ、皆さん方に納得してもらえるような形を考えていかないと前を向いてすすまない。町の財政状況にも合わせながら、秋頃までに案を出したい。2年程かけるとして、できていくのは令和5、6年度頃になるのかと思う。

東谷委員 遅くなるほど生徒数、児童数が減り、1人にかかる金額は大きくなる。できるだけ早くすすめる方がよい。

暁委員 学校を統廃合することに並行して、人口を増やすこともしていかなければならない。テレワークがすすめば、通勤に多少不便でも、住みたいという人も増えるのでは。子どもを育てやすい、介護に関わる施設がたくさんある環境の中で、在宅ワークをしながら上牧町に住むとよいことがたくさんあるということを全面的に出していけばよい。

東谷委員 現在、地域のつながりが校区を中心としたものになっている。校区編成によって地域のつながりも変わっていくということに留意してほしい。

今中町長 学校のコミュニティ・スクール地域がうまくやっていけるか、地域での教育は子どもにとって必要。

東谷委員 少なくとも10年先を見据えて、地域の子どもの人数を調査し、適正規模を見込んで編成しておく必要がある。

- 暁委員 令和9年度の数字を見ると、人数的には中学校が1つでもよい。
- 今中町長 上牧町はどこからどこまで歩いて1時間以上かかることはない。しかし、親御さんにすれば、5分でも通学する時間が延びると、荷物の負担も含め、「かわいそう」となる。それもわからなくはない。
- 暁委員 転入者を呼び込もうと思ったとき、学校まで2キロ歩くとなると、引越条件からまず外れてしまう。
- 今中町長 保育所や幼稚園も子どもが減っているのでも、認定子ども園という案も出てくる。これも学校適正化と並行して考えなければならない。議会でも学力アップについてどうしていくかという質問が出た。学力アップには義務教育学校がよいといわれており、近隣では王寺町が設置する。上牧町としては、この財政状況の中で、どこかに土地を求めて、同一敷地内にするという考え方はなく、できない。あくまで既存の中でどう考えていくか、皆で意見を出し合い考えていきたい。
- 東谷委員 小学校から中学校へのギャップを減らし、スムーズにつなげていけるという利点はあるが、義務教育学校をしたから学力が向上するかはわからない。
- 今中町長 今まで小学校6年間で学習していたものを4年間で、中学校3年間のものを2年間で、残り2年間は受験のためにとすることでより詰め込みになるのではないかと。人間的な部分の教育も必要になる。協議会を設置し、代表の方に来てもらい、説明した上でいろいろな人の考えを聞いて、最終案をまとめる。100%はないが、より多くの方は納得できるものにしていきたい。
- 松浦教育長 協議会の構成員としては、第三者的に客観的に物事が見ることのできる人が必要になる。町長の判断に至るまでに、協議会のメンバーで、どのような中身で発言していくかが大切。校区編成になると、自治会の活動やこれまでの人間関係等の問題も考えていく必要がある。秋口の協議会はそのような形で臨んでいきたい。
- 今中町長 校長先生方には日頃から学校ボランティアの人たちとコミュニケーションを図ってもらっている。各校長先生は義務教育学校についてどうお考えか。
- 上小校長 小学校から中学校へのギャップが話題になっているが、私個人としては多少ギャップがあっても、それを乗り越えていくだけの強さが必要だろうと思う。自身が中学入学時は、新鮮な環境で嬉しかった。中学生になった気分を味わ

わせてあげる方がいいのではないかと考えているので、形はどうあれ6-3は守っていただきたいなと思う。

二小校長 同様に中学にあがるにあたり不安がある反面、期待や楽しみも大きかったと記憶している。

三小校長 近年の子どもたちを見ると、6年生まで背負っていたランドセルが、どうも小さいような状況になっているところは感じる。中学校にあがると文化が変わり、先輩後輩関係等で大きな障害をもつところがある。6-3制がベストではない、子どもたちの体格の部分やそういう文化を変えていく時代が来ているのではないかと考える。卒業式についても、9年間で1つという形として、上牧の中で育っていくビジョンを皆が持てば、何か流れが変わるかもしれないという思いがある。

上中校長 小1から中3までにすることでこれまで以上に人間性、他人を思いやれる学力では表せない部分が育まれるように思う。学力の面も9年間を見通した教育ができる。義務教育学校でないにしても、今まで以上に小中連携をしっかりと図っていくことが大事。

二中校長 メリット、デメリット両方を考えても難しい。上牧第二小学校と上牧第二中学校では去年から行事の共同化を行っている。義務教育学校としては、音楽や技術、英語等に教科をしばって一貫化したり、分離型で5年生6年生は中学校の校舎でいくつかの授業を受けたりと様々な形が考えられる。現在の上牧第二小学校・上牧第二中学校のように、仲間づくりがスムーズで、支援の必要な子に対しても周りが自然とサポートしてくれるといったメリットはある。その一方で、馴れ合いになってしまう、いじめの構図をリセットできないというデメリットも考えられる。また小学校の先生と中学校の先生の子どもへの接し方は全く違うので、そこも1つの課題である。

閉会